降臨節 第一 主日

特祷

全能の神よ、み子イエス・キリストはわたしたちを顧み、謙遜なみ姿でこの世に来られました。どうか今、闇の業を捨てて、光のよろいを着る恵みを与え、終わりの日に生きている人と死んだ人を審くために栄光をもって再び来られるとき、永遠の命によみがえらせてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

《旧約聖書》

イザヤ書

第2章 1節から5節

1 アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて幻に見たこと。

2 終わりの日に
主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ちどの峰よりも高くそびえる。
国々はこぞって大河のようにそこに向かい

3 多くの民が来て言う。
「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。
主はわたしたちに道を示される。
わたしたちはその道を歩もう」と。
主の教えはシオンから
御言葉はエルサレムから出る。

4 主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず。
もはや戦うことを学ばない。

5 ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。

《使徒書》

ローマの信徒への手紙

第13章 8節から14節

8 互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな

掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。10 愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。11 更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。12 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。13 日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、14 主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません。

《福音書》

マタイによる福音書

第24章 37節から44節

37「人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。38 洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。39 そうして、洪水が襲ってきて一人残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。40 そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。41 二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。42 だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。43 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。44 だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

2022年11月27日　信徒作成

詩編 第 122編 1節-9節（全節）　祈祷書889頁　皆様は太字の節を唱えてください。

‖ の後の言葉は、一呼吸おいてからよみましょう。

1.「神の家に行こう」と言われて　‖　わたしの心は喜びにはずんだ

2.エルサレムよ、わたしたちは、今　‖　あなたの門のうちに立っている

3.しげく連なる町、エルサレム　‖　すべての民の都

4.そこにはイスラエルの部族、神の民が上って来る　‖　主のみ名に感謝を献げるのはイスラエルのおきて

5.そこには審きの座　‖　ダビデの家の座が据えられている

6.エルサレムのために平和を祈ろう　‖　「エルサレムを愛する者に栄光

7.その城壁のうちに　‖　その宮殿のうちに平和があるように」

8.わたしの兄弟、わたしの友のために祈ろう　‖　「エルサレムに平和があるように」

9.わたしたちの神、主の住まいのゆえに　‖　エルサレムの上に恵みを祈ろう